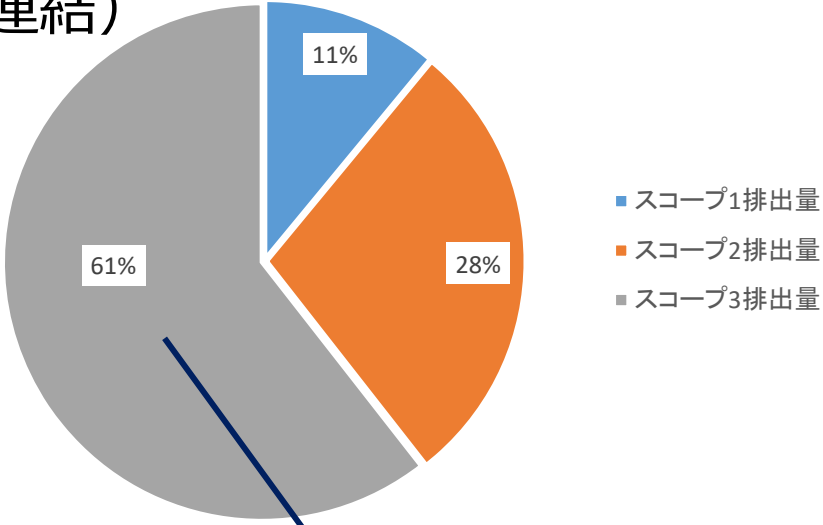
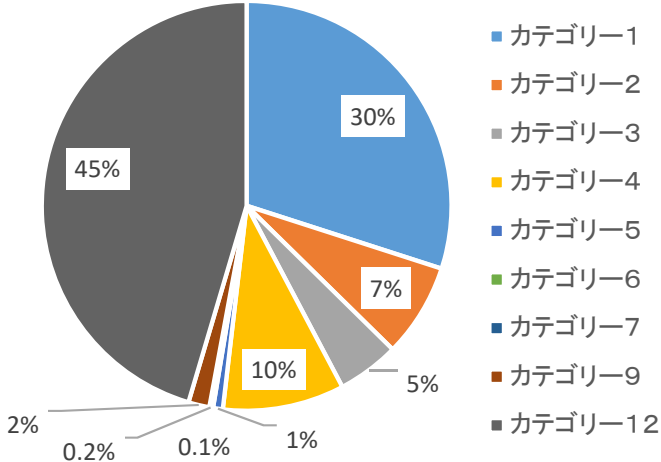


信越化学工業株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：化学製造業 ● 事業概要：塩ビ・化成品、半導体シリコン、シリコン樹脂、電子材料、機能性化学品の製造、販売 ● 事業規模：売上高 1兆5,435億円（2019年度） 従業員数 22,783人（2019年度）
2.削減目標案	<p><Scope 1・2 の削減目標と取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 目標：GHGを生産量原単位で2025年に1990年比で45%に削減する目標を設定。グループ全体で54%にまで削減達成。最終目標達成を急ぐ。 ➤ 2050年のカーボンニュートラルを見据え、徹底した省エネルギー、創エネルギーに挑戦。 <ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギーで高歩留まりの生産工程の開発 ・高効率、超高効率機器の導入 ・天然ガスによるコージェネレーション設備の導入増 ・太陽光発電設備の導入増 ・再生可能エネルギー由来の電力の購入 <p><Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>カテゴリー 1と12を対象。カテゴリー 1 は削減はサプライヤーと協働。カテゴリー 12はリサイクルの促進等。</p>

信越化学工業株式会社

項目	内容	
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 (連結)  <p>■ スコープ1排出量 ■ スコープ2排出量 ■ スコープ3排出量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●SCOPE1 : 1,774千 tCO2
	<p>スコープ3排出量の内訳</p>  <p>■ カテゴリー1 ■ カテゴリー2 ■ カテゴリー3 ■ カテゴリー4 ■ カテゴリー5 ■ カテゴリー6 ■ カテゴリー7 ■ カテゴリー9 ■ カテゴリー12</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●SCOPE2 : 4,593千 tCO2
		<ul style="list-style-type: none"> ●SCOPE3 : 9,778千 tCO2

信越化学工業株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 炭素税による税負担、原油由来の原材料価格の上昇の可能性 ● 再生可能エネルギー導入による電力価格の上昇 <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 脱炭素、低炭素の実現のために当社の製品が利用される分野 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 自動車関連：EV等環境対応自動車、電動化、自動運転 ➤ AI：全産業分野でのAIの活用 ➤ 産業用ロボット：製造、物流、農業、医療用などの省エネ加速 ➤ エアコン：インバーター、コンプレッサーモーター ➤ 航空機：電動化に必須の駆動用モーター ➤ スマートホーム、スマートシティ：省エネ対応IoT, センサー用の素材、ネットワーク用通信機器 ➤ 洋上風力発電機：高効率化、低コスト化 ➤ 塩ビ：樹脂窓による燃料削減、太陽光発電等のための送電線
5.削減目標設定の背景/目的/期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 徹底した省エネルギー、創エネルギーという課題に挑戦し、生産量原単位基準でエネルギー消費を大幅に削減してきた。 ● 各国は2050年カーボンニュートラルを宣言。この目標に資する、貢献する製品を当社は数多く有する。目標に貢献する新製品の開発を進める。 ● 徹底的な効率化、省エネルギー、創エネルギーは課題の解決とともに当社の企業価値を高めることにつながる。

信越化学工業株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> ● ESG推進委員会事務局が削減目標案を策定。 ● 削減目標案を役員、部門長等約50名からなるESG推進委員会で議論し成案を得る。(委員長は代表取締役社長) ● 委員会案を取締役会で議論し、社の方針を決定する。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● スコープ1、2 GHGの総量を削減しカーボンニュートラルを達成するため、省エネ、創エネに取り組む体制を整える。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 取り組む課題 <ul style="list-style-type: none"> 天然ガスによるコージェネレーション設備の導入 太陽光発電設備の導入 再生可能エネルギー由来電力の購入 ➢ CCS、CCU等の新技術の研究 ● スコープ3 <ul style="list-style-type: none"> ➢ カテゴリー1、12の削減を目標とする。カテゴリー1はサプライヤー、12は顧客との連携、協働。